

2023
9
月号

県民の森 だより

宮城県 県民の森管理事務所 TEL&FAX 022-255-8801
〒981-0121 宮城県宮城郡利府町神谷沢字菅野沢41
(指定管理者) 特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会

入園料: 無料
利用時間: 4月~10月 / 9時~16時30分
11月~3月 / 9時~16時



HPはこちら!

9月の声を聴けば少しは涼しくなり、久々に森を歩いてみようという方も多いことだと思います。例年春から梅雨入りの時期にかけてクマの目撃情報が寄せられますが、今年は4月以降クマの出没情報は寄せられておりません。猛暑日が何度か記録される中、遊歩道を刈り払い、クマと出会い頭に遭遇とならないようしっかりと整備をして、皆さんのご来園をお待ちしております。 (所長:森山稔也)

■スズメバチ注意!



この顔にピンときたら
管理事務所へ! 255-7084

これから、ますます、ハチが活動的になります。散策の際には、ご注意ください。出会ったら刺激しないようにそっとその場を離れてください。巣を見たら管理事務所までご連絡ください。



■令和5年度愛鳥週間用ポスター ■原画コンクール入賞作品展示会

今年も、9月1日~28日まで、小ホールにて、愛鳥週間のポスターの原画展示会を開催します。

小学生から高校生まで素晴らしい作品が勢ぞろい! お楽しみに!

優秀賞 片平小学校5年 塚崎一花

県民の森のお勧めスポット~No.22~

木立の中の広場と水面と

県民の森の広い園内は、およそ50m~100m程高低差のある急峻な地形で、急な木立の中の散策路を上ったり下ったり、足下に頭上に心躍る発見に出会えます。

木立に囲まれた道から青邨句碑(せいそんのくひ)と四阿(あずまや)のある広場では急に視界が開け驚かされます。絶好の休憩スポットです。

薔薇雲のさめゆく間に鳥渡る



四阿



青邨の句碑

ここから東へ下った池では急に視界が開け、5月から10月頃までヒツジグサが広がり華やかに迎えてくれます。さらに藤棚の前を進むと林間広場、カツラの大木が高く茂り、秋にはその落ち葉が甘い香りを漂わせていて心なごみます。

広場から階段を上ると頭上のハウチワカエデが風情ある風景を見せています。山道を辿りながら五感をはたらかせてみると、多様な景観と出会えるこれからの季節彩り豊かな秋の風景が楽しみです。 (昭彦)



林間広場



カツラ



ヒツジグサ



ハウチワカエデ





■モリのイキモノ展■

中央記念館に入ると、たくさんの段ボールの動物たちがお迎えしてくれます。デザイナーとして活躍されているヤマモトタイシさんの作品の数々です。

今回、突然ではありますが8月18日から10月17日まで、新作発表を兼ねて『モリのイキモノ展』を開催中です。

10月7日にはワークショップも開催!
A2版の大きさの作品を親子で作ります!
お楽しみに♥



好きな子を作れるよ!

メマツヨイグサ
雌待宵草
(アカバナ科マツヨイグサ属)

けんみんのもり写真館 今月の
スタッフが見つけたしぜんのひとコマ



写真の私は誰でしょう?
つきみそう よいまいちくさ
月見草と呼ばれたり宵待草と呼ばれたりしますが、どちらも間違います。正解は「待宵草」です(正確には雌待宵草です)。

植物学上の月見草は、白~ピンクの花を咲かせます。月見草も待宵草も同時代に渡ってきて全国で野生化しました。花の色が黄色で月をイメージすることから待宵草を月見草と混同するようになったようです。太宰治の「富嶽百景」の作品中の月見草は待宵草だと言われています。

宵待草は植物学上存在しない花です。竹下夢二の詩「宵待草」で一躍世間に広まりました。「待てど暮らせど来ぬ人を宵待草のやるせなさ 今宵は月も出ぬそうな」が歌謡となり大ヒットしました。待宵草を、語感の良さから宵待草と書き換えたと言われています。

待宵草の仲間は、夕方から咲き始め朝にはしほむ夢い一日花です。花言葉は「ほのかな愛」♥

(片岡)

キササゲ 木大角豆
(ノウゼンカズラ科キササゲ属)
植栽

名前の由来は冬に葉が全部落ちても、さや状の果実が木に残り、

ぶら下がっている状態が、ササゲ(実が赤飯などに入れるササゲ豆)に似ているから。さらに木につくことからキササゲのようです。

本種は中国原産で、古くから植栽され野生化しています。高木で水気を好むために避雷針がわりに利用され雷除けの木ともいわれ、神社、仏閣、屋敷内などによく植えられています。

花期6~7月
(駒野)



サシバ 差羽 (タカ目サシバ属)

中国大陆南部や東南アジア方面から渡ってくる夏鳥、県民の森の様な里山で子育てします。

好物の力エル、ヘビや昆虫などを田んぼで捕まえ「ピックイー♪」と高い声で縄張りを見張っています。頭頂から体上面は茶褐色、喉から体下面是白色と茶のマダラ模様、ハシボソガラス位の大きさ。

9月の下旬になると両生類などの餌が少なくなるので、渥美半島や宮古島を経由して越冬地へと集団で渡ることが知られています。

名前の由来は奈良時代の扇(サシバ)がこの鳥の尾羽で作られていた、飛ぶ姿が狩りの矢(サシバ)に似ているからと諸説あります。

(絵:秀・文:もち)



Yukiharu